公開憲法フォーラム 生中継

「憲法フォーラム
安房地域の集い」を開催

主 催：隊友会館山支部
後 援：館 山 市
2014.5.3　館山市内夕日海岸ホテル

２０１４．５

千葉県隊友会館山支部

START

地元紙がトップ記事で掲載

地元紙が第一面
のトップ記事で
フォーラムの状況
を報道

市民一般に
憲法論議に対する
関心を広め
理解を深める上で
また
隊友会活動をｱﾋﾟｰﾙ
する上で“追い風”
なったと考える。

憲法解釈論議聞き入る

公開フォーラム 館山でネット中継

日本国憲法の施行67年を迎えた3日、自衛隊退職者らでつくる「隊友会館山支部」（川村繁文部長）による「憲法フォーラム安房地域の集い」が、館山市のたてやま夕日海岸ホテルで開催された。生中継で、東京・砂防会館で行われた「21世紀の日本と憲法」有識者懇談会」（民間憲法臨調）の「公開憲法フォーラム」を見る試み。安倍晋三首相が設置した有識者懇談会は、今月中旬にも集団的自衛権の行使容認を求める報告書を提出する予定で、憲法改正問題全般について市民ら96人がパネリストの意見に耳を傾けた。

パネリストは、民間憲法臨調代表の櫻井よしこ氏、自民党憲法改正推進本部長の船田元氏、駒澤大学名誉教授の西修氏、作家の百田尚樹氏。各氏

憲法フォーラムに参加する人ら＝たてやま夕日海岸ホテルで

2014.5.5付
房日新聞記事

＜以下省略＞

No.2

「憲法フォーラム」主催の経緯

- 4月初めに、「日本会議安房支部設立発起人会」を通じ中央での憲法行事と連携した地方での憲法行事の開催について、隊友会館山支部に要請があった。
- 全く予期せぬことであったが、地元自衛隊ＯＢ会が要請を辞退したことと、「憲法」という問題の重要性を考え、隊友会としての事業活動の目的･趣旨に照らして、支部として「主催」することを決定。
- 準備期間も短かく、協力･支援団体が得られない状態でのスタートであったが、地元友好団体、有力者等の理解･協力を得て、当初の目標（１００名の参加者を期待）に近い参加者を数え、一応の成功を収めたと言えよう。

「憲法フォーラム」インターネット中継の概要

- 主催　:「21世紀の日本と憲法」有識者懇談会(民間憲法臨調)
- 会場:砂防会館別館　5．3(土)
- メイン行事　:シンポジウム

ｺｰﾃﾞｨﾈｽﾄ　櫻井よしこ(「民間憲法臨調代表)

ﾊﾟﾈﾗｰ　船田元(自民党憲法改正推進本部長)

西　修(駒沢大名誉教授)

百田尚樹(作家)

地方行事「安房地域の集い」
主催者としてのポリシー

- 中央の行事（提言、シンポジウム）が
  「改憲」を主唱し、組織的に「憲法改正」
  を推進するものであることに鑑み、
- 公益法人として「特定の政党・政治思想を支持する立場」 をとることについて、「護憲派」等
  からの妨害的な行為もあり得ることを念頭に
  置いて、地方行事の主催者として、次の点を
  ポリシーとして強調した。

主催者挨拶　館山支部長

「初めに改憲、護憲ありき」ではなく、生い立ち、職業、社会経験等を異にする人々（登壇者）が、どこに論点を定め、何を論拠に「改憲」を主唱するに到ったのか、思考判断の過程を読取ることが大切。
ここにフォーラム（視聴）の意義があることを強調

地元有志提言　藤田幸生氏

（元海上幕僚長、隊友会相談役、館山支部会員）
永年“防衛の現場”で勤務し、掃海艇のペルシャ湾派遣や北朝鮮のミサイル発射、不審船舶への対応等々、不測の事態に直面した場合の部隊指揮官・隊員の「行動判断」と「憲法規定」の間のギャップは国策として“正常のものではない”ことを強調。

「シンポジウム」のひとこまから

コーディネスト　櫻井よしこ代表の問い掛け
「憲法は何のためにあるのでしょうか？」
ここに憲法論議の原点、憲法を考える上での
大切なキーワードがあると思うのである。

No.7

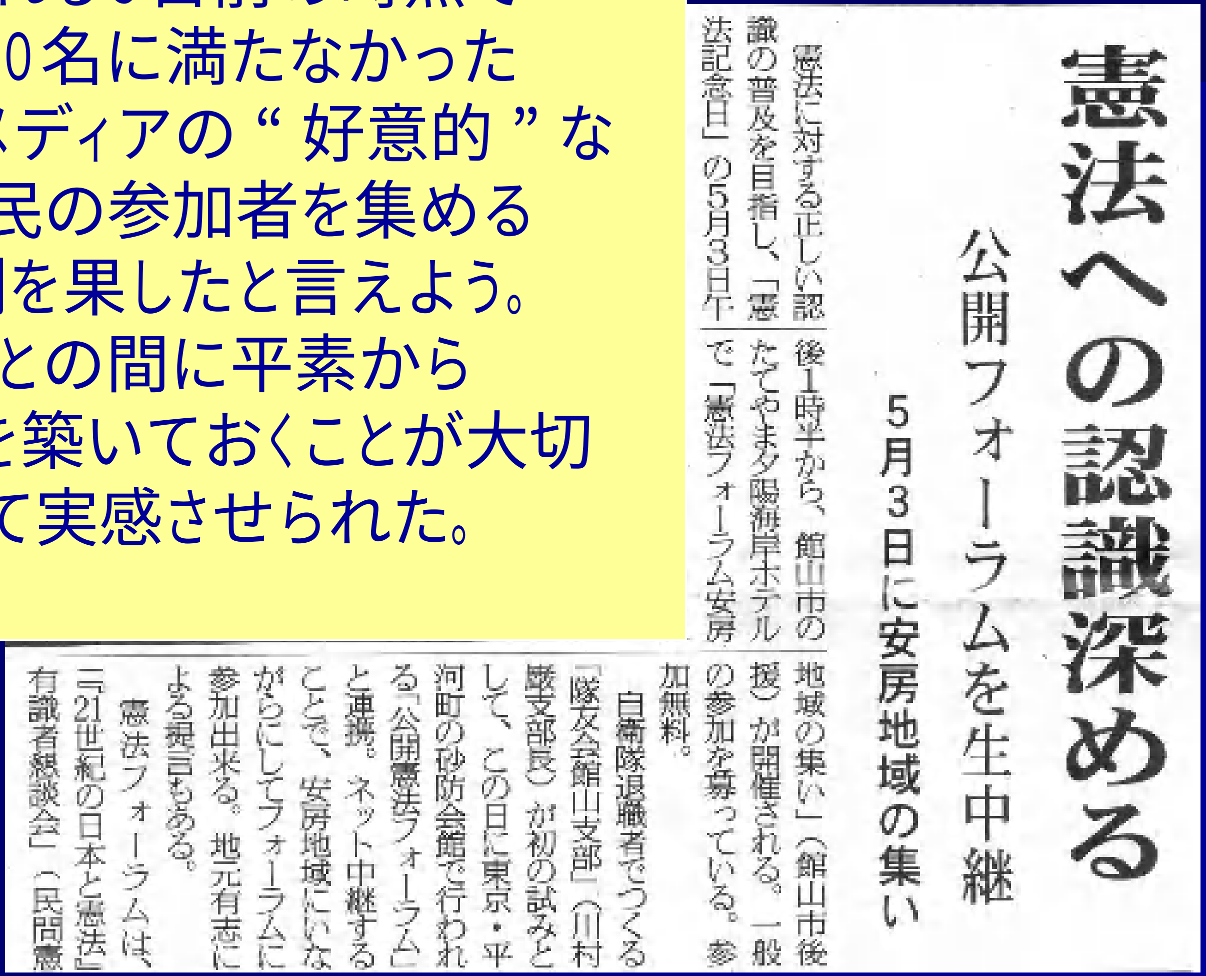
パネラー･作家
百田尚樹氏の
憲法提言

メディアを意識した
痛烈な風刺と自由
奔放な発言は聴衆
の喝采を浴びた。

No.8

参加者動員の原動力！

この記事が出される5日前の時点で
参加申込みが60名に満たなかった
ことから、地元メディアの“好意的”な
掲載記事が市民の参加者を集める
上で大きな役割を果したと言えよう。
地元メディアとの間に平素から
“信頼関係”を築いておくことが大切
なことを改めて実感させられた。



憲法への認識深める

公開フォーラムを生中継

5月3日に安房地域の集い

憲法に対する正しい認識の普及を目指し、「憲法記念日」の5月3日午後1時半から、館山市のたてやま夕陽海岸ホテルで「憲法フォーラム安房地域の集い」（館山市後援）が開催される。一般の参加を募っている。参加無料。

自衛隊退職者でつくる「隊友会館山支部」（川村隆支部長）が初の試みとして、この日に東京・平河町の砂防会館で行われる「公開憲法フォーラム」と連携。ネット中継することで、安房地域にいながらにしてフォーラムに参加出来る。地元有志による提言もある。

憲法フォーラムは、「21世紀の日本と憲法」有識者懇談会」（民間憲

以下省略

No.9

＜4月30日付地元紙の紹介記事＞

教訓･所見　(館山支部長　川村　巌)

- この種の催しに自衛隊協力会、自衛隊父兄会等地元協力･友好団体の支援が必要不可欠なことは言うまでもない。
  如何せん当地区では、平素からの協力･支援関係は皆無と言ってもよい。“ 苦しいときの神頼み ” ではダメである。
  “ ギブ＆テイク ” 、平素からの良好な相互協力関係を芽生えさせ、構築しておくことが今後の大きな課題である。
- 市民一般の参加者に比し、自衛隊ＯＢの参加が少なかったのは何とも寂しいかぎりである。
  「会勢の充実強化」 が叫ばれて久しいが、ＯＢの意識の“ 実態把握“ に根差した施策の推進こそが大切なことを痛感させられた。　(完)

END